

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

2022/2/28

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは2月28日（月）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		2月25日現在 (矢印は1月末比)	3月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 115.55	⇒ 112.00 ~ 118.00
	いよいよFRBの利上げサイクルが開始、3月以降連続利上げでUSDが堅調		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.127	↘ 1.05 ~ 1.15
	ユーロ・円 (円)	↗ 130.25	↘ 125.00 ~ 135.00
	ECBのタカ派サプライズも、引き続きウクライナ情勢の不透明感がEURの重石に		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↘ 1.341	↘ 1.31 ~ 1.35
	ポンド・円 (円)	⇒ 154.83	↘ 148.00 ~ 156.00
	ウクライナ情勢で欧州売りにつれて下落しやすい		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 83.55	↗ 81.00 ~ 86.00
	NZドル・円 (円)	↗ 77.91	↗ 75.00 ~ 80.00
	オセアニア通貨は地政学リスクで当面不安定な値動きも堅調さを保つとみる		
株式 相場	日経平均 (円)	↘ 26,477	↗ 25,000 ~ 28,000
	オミクロン株ピークアウトの兆しで内需回復に期待		
	NYダウ (ドル)	↘ 34,059	↗ 32,500 ~ 35,500
長期 金利	今後の利上げの道筋が明確になれば一旦は安心感も		
	日本 (%)	↗ 0.211	⇒ 0.15 ~ 0.25
	高止まりする米金利に連れやすいが、YCCで上昇余地は限定的		
	米国 (%)	↗ 1.962	⇒ 1.70 ~ 2.15
	FRBによる利上げ開始で金利は一旦落ち着きへ		

◆ 今月の注目ポイント

コロナ・ウクライナ問題を受けたインフレ・原油価格動向

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	○	【コロナ動向と経済・物価影響】先んじてオミクロン株の感染が拡大した欧米で感染者数の減少傾向が顕著となり、英国ではコロナ規制を撤廃。国内でも感染者が前週を下回る日が続いており、ピークアウトの兆しがみられる中、1・2月の低迷から回復に向かうか注目。米国ではインフレ高進が続くなか、コロナや地政学による供給サイドの動向がカギ。
金融政策	◎	【FRB利上げへ】今月にもFRBは資産買入縮小を終了し、15-16日のFOMCにて利上げを開始する見込み。ウクライナ情勢の悪化を受け当初0.50%利上げの可能性は後退しつつあるが、利上げ前後の米金利の動きは神経質な展開が見込まれる。議長会見では今後の利上げのペースや、バランスシート縮小の道筋にも注目が集まる。
政治	◎	【地政学リスク】ロシアがウクライナに侵攻し、欧米諸国がロシアの一部銀行をSWIFTから排除するなどの制裁を行う方針。厳しい制裁は欧米諸国への影響も免れず、ロシアのエネルギー供給不安定化が原油高や欧州経済下振れにつながる可能性に注意が必要だろう。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	⇒ 17.80 ~ 18.45	ルピー・円	↘ 1.50 ~ 1.55
バーツ・円	⇒ 3.40 ~ 3.65	ウォン・円	↘ 9.20 ~ 9.70
ルピア・円	↘ 0.785 ~ 0.805		

◆ 今月の重要日程

1日(火) 中 2月PMI
1日(火) 米 2月ISM製造業
2日(水) 欧 2月CPI
4日(金) 米 2月雇用統計
10日(木) 欧 ECB理事会
10日(木) 米 2月CPI

16日(水) 米 2月小売売上高
16日(水) 米 FOMC<結果発表>
17日(木) 英 BOE金融政策委員会
18日(金) 日 2月CPI
18日(金) 日 日銀金融政策決定会合
24日(木) 欧 3月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

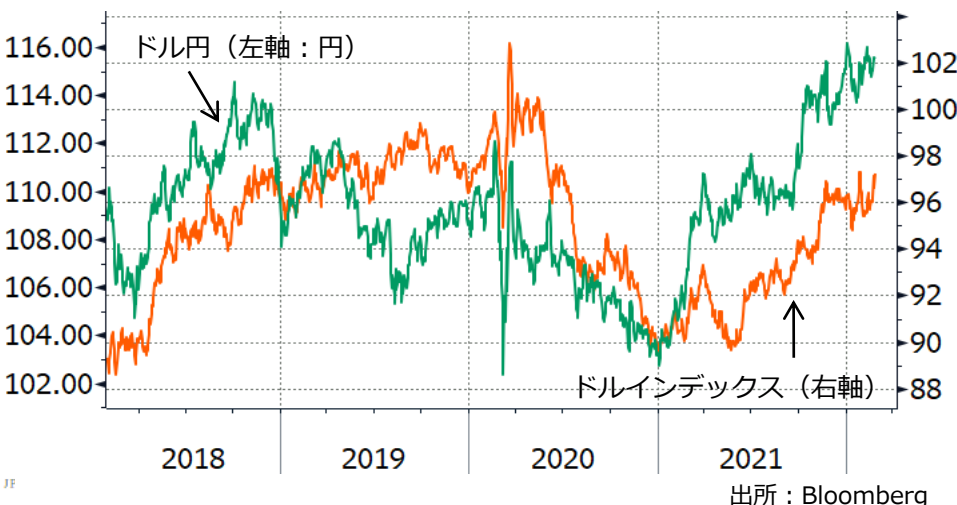


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

➡ドル円はもみ合い

112.00 – 118.00円

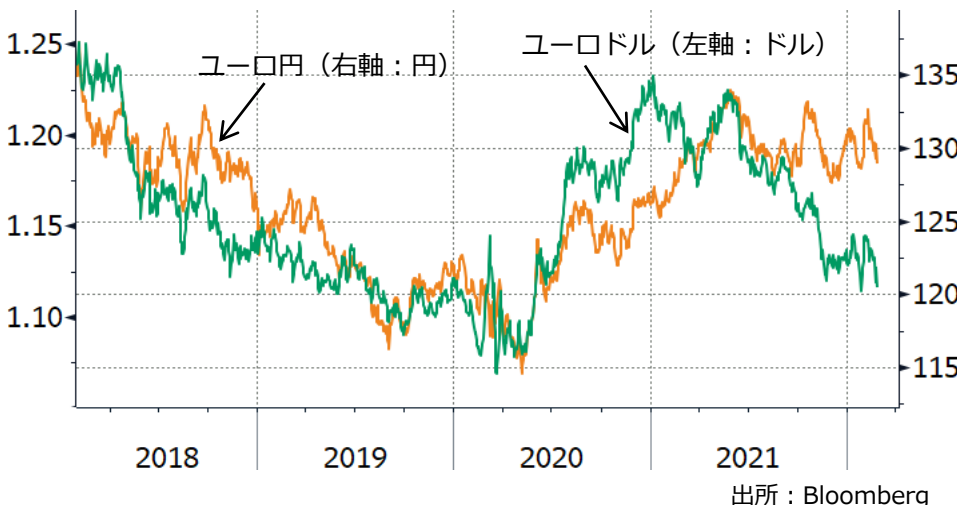
いよいよFRBの利上げサイクルが開始、3月以降連続利上げでUSDが堅調

2月のドル円相場は堅調な米経済指標を背景としたUSD高により一時116円台を回復する場面も見られたものの、年初来高値の更新には至らず、反落。その後はウクライナ問題に絡む地政学リスクの高まりによるリスクオフの動きが強まり、ドル円相場はもみ合いとなった。

2月に発表された米国の経済指標は月初の雇用統計に始まり、軒並み市場予想を上回る強い結果となり、オミクロン株懸念のあるなかでも堅調な経済動向が確認された。パウエル議長の記者会見での言及の通り、もはや米国経済は金融支援を必要とする状況にはなく、FRBは予定通りテーパリングを完了したうえで3月以降のFOMCでの連続利上げに踏み切る公算が高いであろう。

FRBの利上げ期待の高まりを受け、2月の米国10年債利回りが一時2.0%台に乗せる場面もあった一方、国内では日銀による指値オペが実施されたこともあり、長期金利の上昇は一服となった。黒田総裁は一部で報道された物価目標達成前の金融引き締めを明確に否定しており、日米金融政策較差と金利差の観点から、当面のドル円相場は底堅い推移が見込まれる。また、ウクライナ情勢のエスカレーションは初期反応としてはリスクオフのJPY高が見込まれるが、エネルギー価格が高騰する場合はJPY安の要素もあり、情勢変化には注意する必要がある。

ユ ー ロ



ユーロドル

⬇ユーロドルは下落

1.05 – 1.15ドル

ユーロ円

⬇ユーロ円は下落

125.00 – 135.00円

ECBのタカ派サプライズも、引き続きウクライナ情勢の不透明感がEURの重石に

2月のEUR相場はECBの金融正常化期待の急速な高まりから、対USD、対JPYともに大きく上昇した一方、ウクライナ情勢の緊迫化が重石となり、中旬以降はいずれも反落する展開となった。

月初のECB理事会は無風通過が見込まれていたが、ラガルド総裁はその後の記者会見にて年内利上げの可能性を否定しなかった。前回は「起こりそうにない」と明確に否定していただけに、この転換は大きなサプライズとなり、ECBの年内利上げが市場に急速に織り込まれると同時にEURが急騰、対JPYでは年初来高値を更新し132円台に乗せる場面もあった。

一方ウクライナ問題の悪化は地理的な問題やエネルギー供給をロシアに依存する欧州経済への影響が大きく、情勢の悪化はEURの重石となりやすい。昨年変更されたECBのフォワードガイダンスや資産買入れ方針等からECBの正常化議論は中期的な材料であり、既に年内マイナス金利解除を100%織り込むのは拙速な可能性もある。短期的には反落を見込む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

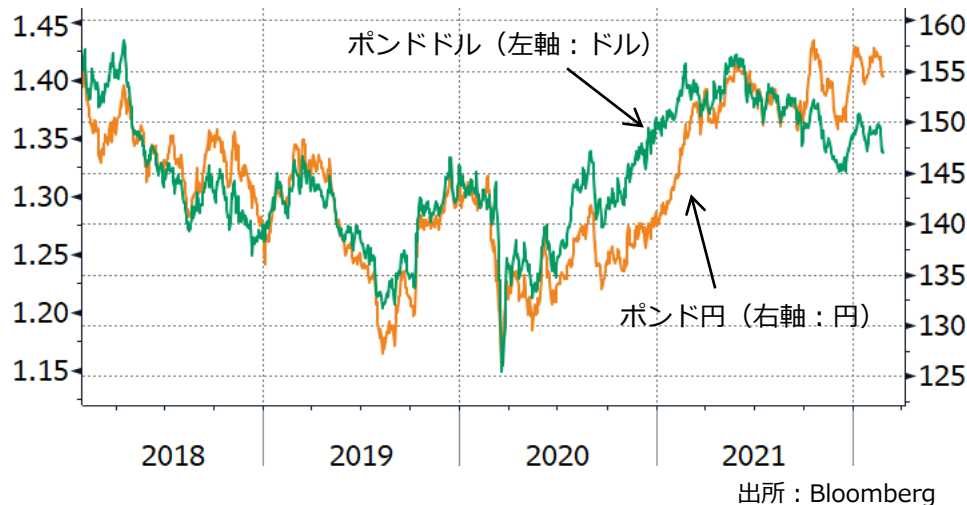


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

ポンドドルは下落

1.31 - 1.35ドル

ポンド円

ポンド円は下落

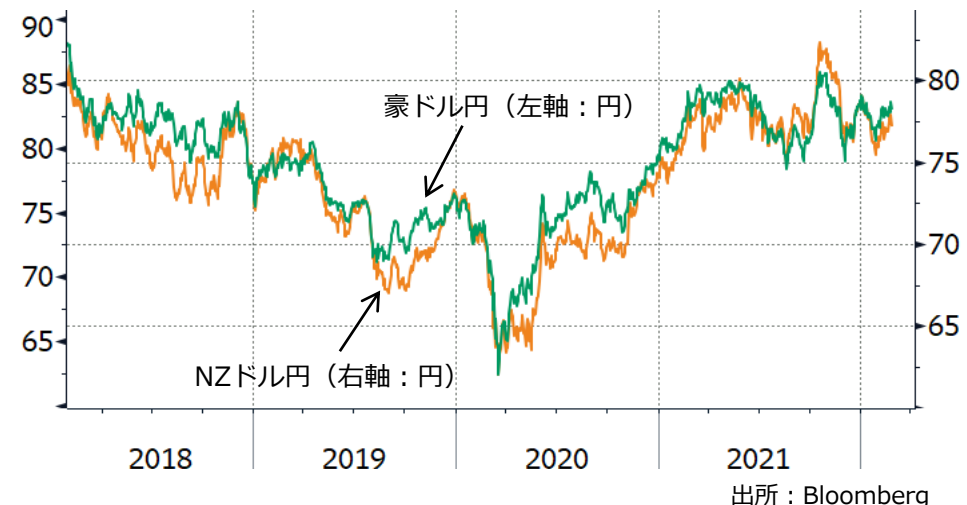
148.00 - 156.00円

ウクライナ情勢で欧州売りにつれて下落しやすい

2月のポンドは対ドル、対円ともに下落となった。BOEは2/3に事前予想通り0.25%利上げを決定したものの、9名中4名の委員が0.50%の利上げを支持したことが伝わりタカ派サプライズとなった。ポンドドルは1.36近辺での推移が続いたが、月末にロシア軍によるウクライナ侵攻開始が伝わると、リスクオフから一時1.32台まで売られた。一方でCPIは前年比5.5%と予想を上振れしインフレ警戒と引き締め観測は相場の支えとなっている。

3月のポンドは対ドル、対円ともに下落を予想。これまで英中銀はインフレ抑制に前向きな姿勢を示したが、ウクライナ情勢の経済への影響が不透明な中、金融引き締めには慎重なスタンスとなる可能性がある。ウクライナ情勢に関してはロシアの侵攻がどこまで進むか、それに対して西側諸国はいかに反応するかは予断を許さない。しかし、情勢が悪化した場合、英国はロシアと距離的に近いことから、ポンドは欧州売りに連れて軟調に推移しやすいとみる。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

豪ドル円は上昇

81.00 - 86.00円

NZドル円

NZドル円は上昇

75.00 - 80.00円

オセアニア通貨は地政学リスクで当面不安定な値動きも堅調さを保つとみる

2月の豪ドル円、NZドル円相場は上昇。2/1の豪中銀会合では利上げの慎重姿勢が示されハト派的な内容。これを受け豪ドルが売られる場面もあったが、総じてリスク選好相場となり2月中旬にかけて豪ドル円は84円手前まで上昇した。月末にかけては、ウクライナ情勢の悪化から金融市場はリスク回避的な動きをする場面もあったが、ウクライナから地理的に遠いという側面から、両通貨への影響は限定的、むしろ地政学リスクの高まりによる原油等の商品高が両通貨の支援材料ともなった。また2/23のNZ中銀会合では利上げ実施とともに更なる利上げ加速が示唆されNZドルの支えとなった。

今月の豪ドル円、NZドル円相場は上昇を予想する。地政学リスクで当面市場は不安定化しやすいが、原油高は円安圧力となりやすく下値は限定的とみる。短期的にはリスク回避相場の巻き戻しも想定され、こうした局面では両通貨は堅調に推移しやすいだろう。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

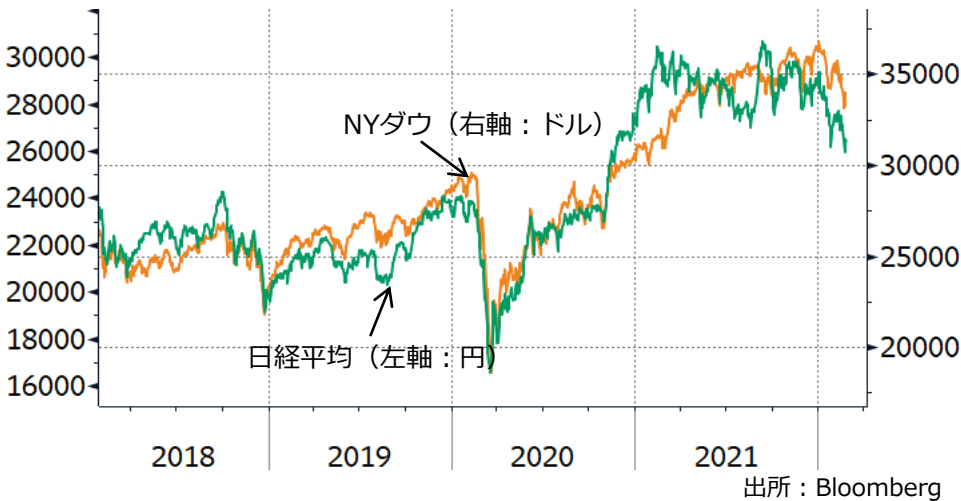
© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年3月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は上昇

25,000 – 28,000円

オミクロン株ピークアウトの兆しで内需回復に期待

2月の日経平均は米国金融政策の正常化やロシアのウクライナ侵攻を受け年初来安値をつけた。3月の株価は底堅い展開を予想。ウクライナ侵攻は一旦織込まれ、欧米諸国を巻き込んだ一段の戦況悪化がなければ短期的には反発が予想される。またFRBも今月利上げを開始し、その道筋が示されれば安心感も広がりやすい。オミクロン株の感染拡大にピークアウト感が見られることも、内需株にはポジティブとなろう。

NYダウ



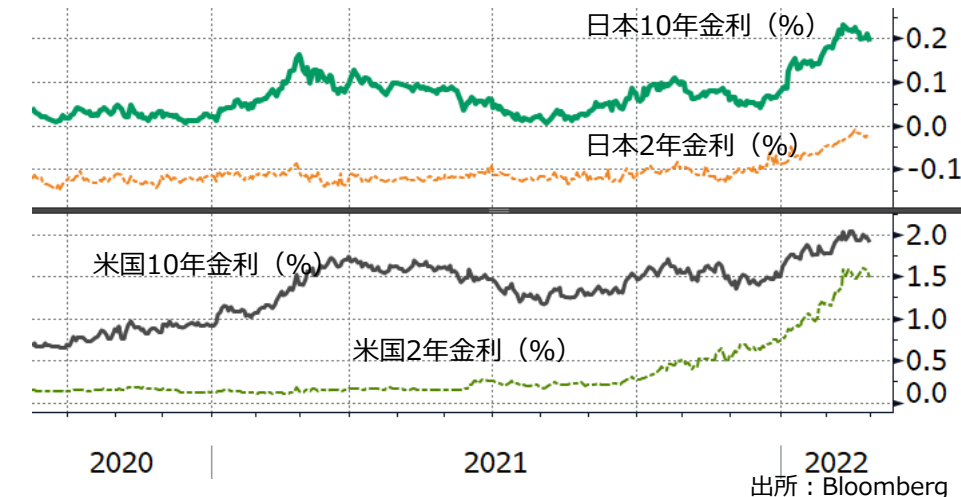
ダウは上昇

32,500 – 35,500ドル

今後の利上げの道筋が明確になれば一旦は安心感も

2月のNYダウはFRBの金融政策正常化やロシアのウクライナ侵攻を受け大幅下落となった。3月のNYダウは欧米諸国を交えたウクライナの一段の戦況の悪化がなければ、短期的には反発が予想される。今月FOMCでFRBは利上げを決定する見込みだが、先行きの利上げやバランスシート縮小に関して明確な道筋が示されれば、安心感も広がりやすい。一方引き続きウクライナ関連のヘッドラインや、中期的にはロシア向け制裁が欧州経済に与える影響を注視。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は横ばい

0.15 – 0.25%

高止まりする米金利に連れやすいが、YCCで上昇余地は限定的

2月の円金利は日銀の政策修正観測やFRBがインフレ警戒を強めたことで、大幅金利上昇後、日銀が指値オペを行ったことや、ウクライナ情勢の悪化を受け上昇幅は縮小した。今月の円金利は横ばい圏での推移を見込む。FRBの連続利上げが示唆される可能性が高い中、米金利は高止まりしやすい。一方で、日銀のイールドカーブコントロールにより、金利上昇は抑えられよう。

米国債10年



金利は横ばい

1.70 – 2.15%

FRBによる利上げ開始で金利は一旦落ち着きへ

2月の米金利は強いCPIやタカ派的なFRB高官発言を受け一時2%台に乗せる場面もあったが、その後ロシアのウクライナ侵攻を受け上げ幅を縮小した。今月の米金利は横ばい推移を予想。15-16日のFOMCでは利上げが見込まれており、神経質な展開も予想されるが、利上げやバランスシート縮小の道筋が示されれば金利上昇の流れは一旦落ち着きやすいだろう。一方で、利上げ加速への警戒感はまだ、大幅な金利低下も見込みづらい。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年3月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		2/25		2月の相場推移		3月の予想	解説
中国	人民元/円	18.31	➡	17.94~18.33	➡	17.80~18.45	2月のドル人民元相場はじりじりと下落、引き続き経常黒字を背景とした元高圧力が続く中で、月末ウクライナ情勢悪化によりドル高が進む場面でも同時に人民元高も進行しドル人民元は6.3台前半の水準となった。こうした元高進行に対して当局が特段の懸念を示さないことも元高が続く要因。こうした背景からドル人民元はもみ合いが続きやすく、人民元円も横ばい圏と予想。
	ドル/人民元	6.314	➡	6.306~6.378	➡	6.30~6.40	
タイ	バーツ/円	3.560	➡	3.441~3.588	➡	3.40~3.65	2月のバーツ相場は経済回復や観光業回復への期待により堅調に推移、リスク選好のドル安も相まってドルバーツは一時32バーツ近辺まで下落、その後ウクライナ情勢をうけてのドル高で下落幅を縮小。オミクロン株感染拡大の中でも経済回復の機運は高まる一方、足元のウクライナ情勢を受けた資源高はタイ内需には悪材料。今月のバーツ相場は地政学で振れつつ対ドルもみ合いを想定。
	ドル/バーツ	32.51	➡	32.09~33.29	➡	32.0~33.5	
インドネシア	ルピア/円	0.804	➡	0.795~0.812	➡	0.785~0.805	3月のドルルピアは上昇(ルピア安)を予想。2月はインドネシア株を物色する資金フローを受け、ドルルピアは下落(ルピア高)したが、地政学リスクの高まりから下落幅を縮小した。インドネシア中銀総裁が利上げの前倒しの可能性を示唆していることはルピアのサポートになるが、地政学リスクが払しょく出来ない中、米金融引締によるドル高も予想されドルルピアは上昇しやすいとみる。
	ドル/ルピア	14,367	➡	14,253~14,408	➡	14,300~14,500	
インド	ルピー/円	1.539	➡	1.514~1.552	➡	1.50~1.55	3月のドルルピー相場は上昇(ルピー安)を予想。2月の初旬からインド株の下落に伴う資金流出や財政悪化懸念、ウクライナ情勢の緊迫を背景に、ルピーが売られた。2月の金融政策委員会でインド中銀は低金利維持のフォワードガイダンスを継続した。今後も緩和姿勢の維持が見込まれる中、タカ派に転じた米国FRBとの政策スタンスの違いから、ドルルピーは上昇しやすいと思われる。
	ドル/ルピー	75.29	➡	74.35~75.72	➡	74.50~76.50	
韓国	ウォン/円	9.614	➡	9.481~9.719	➡	9.20~9.70	2月のウォン相場は狭いレンジ内の動きの中で対ドルで上昇、月末はウクライナ情勢を受けてウォン高は縮小。韓国中銀は2/24の会合で3会合ぶりに政策金利を1.25%で据え置き。今後更なる利上げも予想されるが、景気不安もくすぶる中で利上げ余地は限られよう。FRBの引締警戒や資源高も続く中でウォンの上値は重いだろう。大統領選情勢不透明もウォン相場への影響は限定的とみる。
	ドル/ウォン	1,202	➡	1,190~1,207	➡	1,180~1,230	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

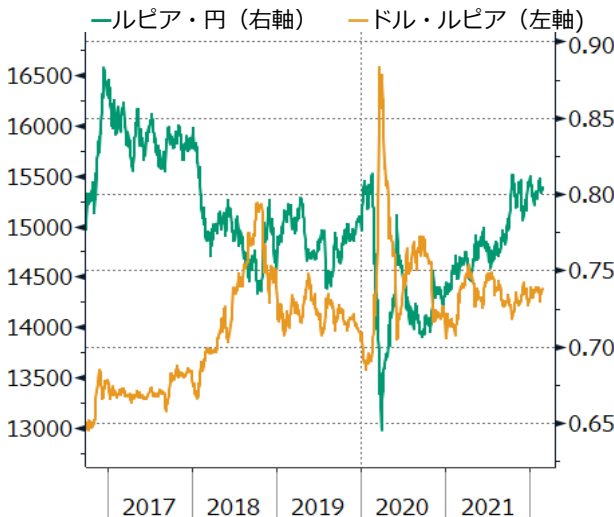
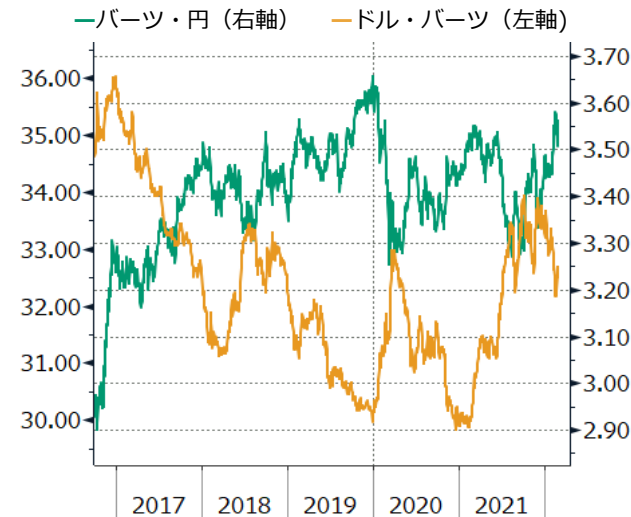
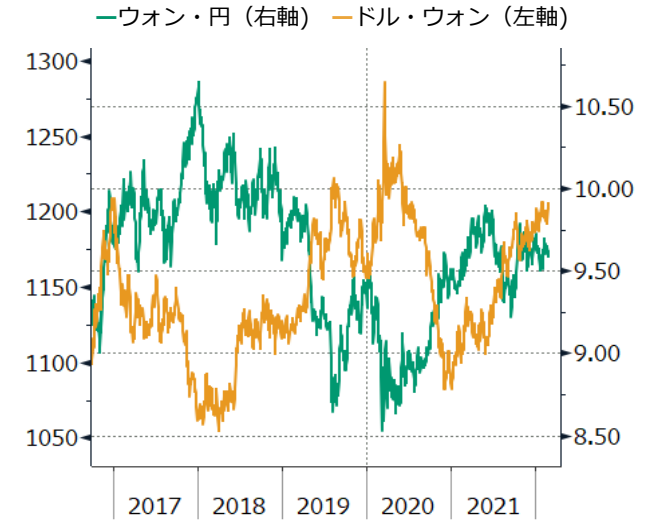
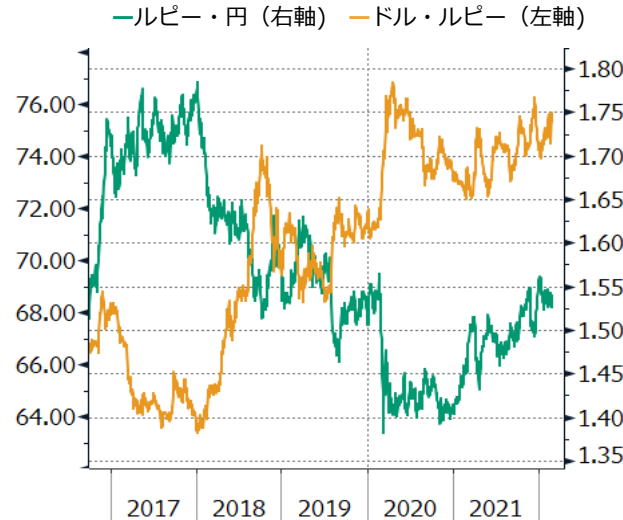
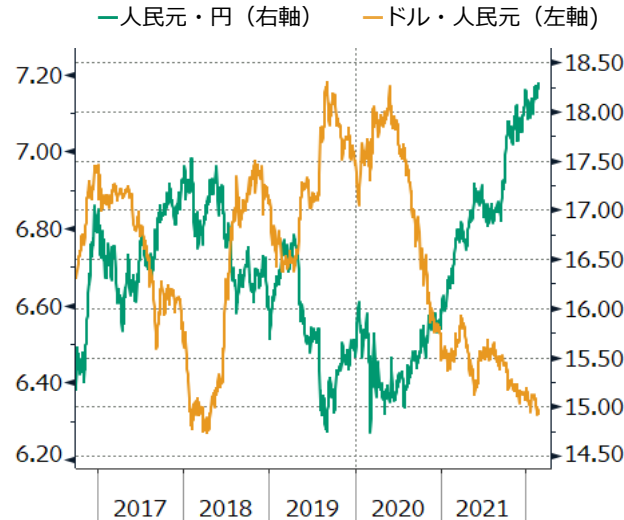
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

◆ 年間為替見通し

		2022年				ポイント
		3月	4～6月	7～9月	10～12月	
ドル円	レンジ	112～118	110～120	112～120	108～118	FRBの急ピッチな金融正常化で前半は底堅く推移も、年後半はFRBの対応一服と中間選挙の不透明感が上値を抑える
	期末値	114	116	118	114	
ユーロドル	レンジ	1.05～1.15	1.00～1.15	1.00～1.18	1.12～1.20	FRBが金融正常化を先行させるなか、地政学リスクの高まりがEURの重石に。一方、年後半はFRBの対応が一服するなか、代わってECBが正常化サイクルに入る可能性があり、EURの反転上昇を見込む。
	期末値	1.13	1.12	1.13	1.18	
ユーロ円	レンジ	125～135	115～135	115～135	125～140	FRBの金融引き締めやウクライナ情勢の不透明感が続く中、ポンドドルの上値が抑えられる。一方、コロナ感染拡大が一服した中、英中銀はインフレ抑制に前向きな姿勢を示しており、ポンドの支えとなるだろう。年後半は政治リスク回避から上値が重くなると予想。
	期末値	129	129	133	135	
ポンドドル	レンジ	1.31～1.35	1.29～1.40	1.28～1.38	1.28～1.35	米金融緩和縮小からドル高が進む一方、中国の活発な輸出環境等から人民元も堅調に推移する。年末にかけ経済正常化の過程では元高に巻き戻し入る。
	期末値	1.31	1.34	1.33	1.31	
ポンド円	レンジ	148～156	145～160	145～160	143～158	目先は不透明な相場環境で上値重いが、豪州も年内利上げが視野に入り金融政策格差を背景に上昇
	期末値	149	155	156	149	
ドル人民元	レンジ	6.30～6.40	6.35～6.60	6.40～6.75	6.40～6.75	景気回復期待から当面堅調な推移を想定するが資源高や地政学リスクに注意。年後半は円高想定。
	期末値	6.35	6.45	6.60	6.50	
人民元円	レンジ	17.8～18.5	17.2～18.2	16.9～18.4	16.7～18.0	
	期末値	17.9	18.0	17.9	17.5	
豪ドル円	レンジ	81.0～86.0	82.0～90.0	85.0～93.0	84.0～91.0	
	期末値	84.0	88.0	89.0	86.0	
タイバーツ円	レンジ	3.40～3.65	3.30～3.70	3.20～3.60	3.10～3.50	
	期末値	3.50	3.50	3.40	3.30	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
3/1(火)	10年債入札	2月ISM製造業景況指数	(豪) 準備銀行理事会 (中) 2月PMI (中) 2月製造業PMI
3/2(水)	10-12月期法人企業統計調査	2月ADP雇用統計 米地区連銀経済報告	
3/3(木)	30年債入札	1月製造業受注 2月ISM非製造業景況指数	
3/4(金)	1月労働力調査	2月雇用統計	
3/7(月)			
3/8(火)	1月毎月勤労統計(速報) 2月景気ウォッチャー調査 5年債入札	1月貿易収支 3年債入札	
3/9(水)	10-12月期GDP(二次速報値)	10年債入札	(中) 2月CPI
3/10(木)	20年債入札 2月企業物価指数	2月CPI 30年債入札	(欧) ECB定例理事会
3/11(金)	1月家計調査		
3/13(日)		(夏時間開始)	



	日本	米国	その他
3/14(月)			
3/15(火)		2月PPI 3月NY連銀製造業景況指数	(中) 2月生産・小売・投資 (独) 3月ZEW景況指数
3/16(水)	2月貿易統計	2月小売売上高 FOMC(結果発表)	
3/17(木)	1月機械受注	2月住宅着工・許可件数 3月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(英) BOE金融政策委員会
3/18(金)	2月消費者物価指数 黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合(結果発表)	2月中古住宅販売	
3/21(月)	(春分の日)		
3/22(火)			
3/23(水)		20年債入札 2月新築住宅販売	
3/24(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (1/17~18開催分)		(欧) 3月PMI(速報値)
3/25(金)			(独) 3月IFO企業景況感指数
3/28(月)		2年債入札 5年債入札	
3/29(火)	2月労働力調査 40年債入札	3月消費者信頼感指数 7年債入札	
3/30(水)		10-12月期GDP(確定値) 3月ADP雇用統計	
3/31(木)	2月鉱工業生産 2月住宅着工件数 2年債入札	2月個人所得・消費支出	(中) 3月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【1/28~2/10】

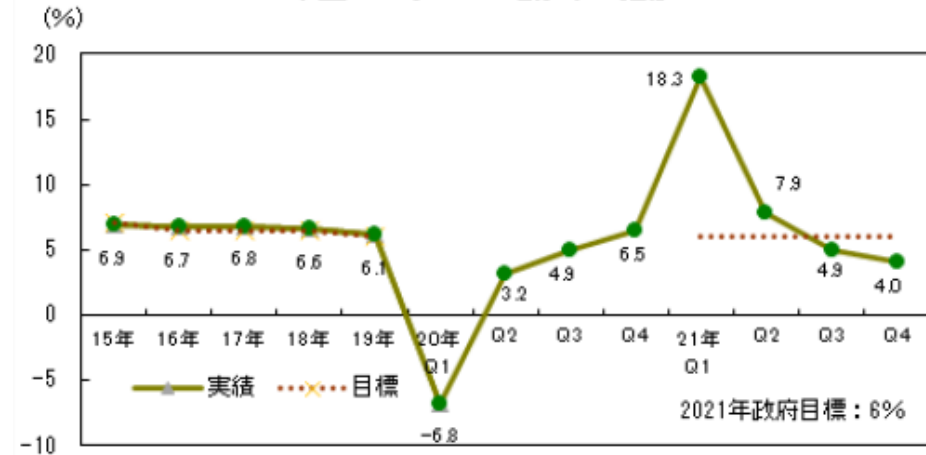
◎ 5 万元超の現金出入金 3 月から制限開始

中国人民銀行（中央銀行）は、銀行業務に関わる現金の入出金に関する新規定を発表した。1 回の入出金額が 5 万元（約 90 万円）を超える場合、銀行が身分や用途の確認などを行うようになる。1 万米ドル（約 115 万円）以上に相当する外貨の入出金も同様な手続きが必要となる。新規定はマネーロンダリングの防止が目的だと見られている。業界関係者は電子決済が発達している中、一般顧客に大きな影響はないとの見方を示している。同規定は 3 月 1 日から施行する。

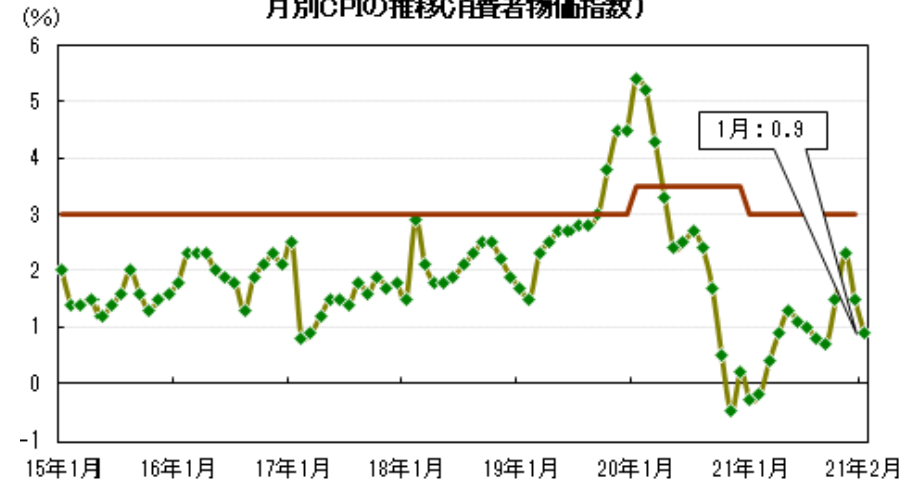
◎ 21 年の N E V 世界シェア 53% に上昇

中国自動車流通協会（C A D C）が発表したデータによると、2021 年の「新エネルギー車（N E V）」乗用車の世界シェアで中国が 53% を占めたと判明した。世界販売量は前年比 2.2 倍の 623 万台で、うち中国は 331 万台と欧州（207 万台）や北米（69 万台）を大きく上回っている。メーカー別では米テスラが 17% で 1 位、2 位は上海汽車集団（中）で 12%、B Y D（中）は 10% でフォルクスワーゲン（独・V W）を抜いて 3 位となった。

中国における GDP 増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年3月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【2/18~2/24】

◎ 中小零細企業に支援策安定成長に注力

中国国家発展改革委員会など中央12部門は18日、22年の経済の安定成長に向けた支援策を発表した。税制面では、中小零細企業に対する設備投資の税額控除、生産型中小企業税金の支払い猶予、零細企業の所得税減免など優遇税制を強化する予定。投資面では、風力・太陽光発電所の投資を推進する方針。また、サービス業の税軽減は今年も継続すると表明。なお、生産や経営の環境悪化を防ぐため過度な防疫体制は控える方針を示している。

◎ 21年の外資企業新設23%増

中国国家市場監督管理総局（市場監管総局）によると、21年の外資企業の設立数は前年比23.3%増の6万1,000社となり、新型コロナウイルス流行前の19年と比べて2.5%増え、海外企業が中国市場を重視している姿勢が見てとれる。内訳としては、第3次産業が9割以上を占めており、特にハイテク分野の企業数が大幅に増加し、「科学研究・技術サービス業」に属する外資企業の設立数は前年比42%増え、投資分野が労働集約型産業からハイテク産業に移行している趨勢が伺える。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1
実質GDP成長率	%	18.3	-	-	7.9	-	-	4.9	-	-	4.0	-
消費者物価上昇率	%	0.4	0.9	1.3	1.1	1.0	0.8	0.7	1.5	2.3	1.5	0.9
都市部調査失業率	%	5.3	5.1	5.0	5.0	5.1	5.1	4.9	4.9	5.0	5.1	-
輸出額	10億ドル	240.7	263.5	263.6	281.1	282.3	294.0	305.3	299.7	324.9	340.5	-
輸入額	10億ドル	228.9	222.5	220.1	230.5	226.4	235.3	238.1	215.3	253.2	246.0	-
経常収支	100万ドル	69,446	-	-	122,749	-	-	196,340	-	-	315,740	-
外貨準備高	10億ドル	3,170.0	3,198.2	3,221.8	3,214.0	3,235.9	3,232.1	3,200.6	3,217.6	3,222.4	3,250.2	3,221.6
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.51	6.52	6.42	6.43	6.48	6.48	6.46	6.41	6.39	6.37	6.36

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○北京オリンピックについて

北京冬季オリンピックが開催してから7日目になります。北京の競技場に行けないまま遠距離で観戦するしかできないとはいえ、国民の関心度が依然よりだんだん高まっているようです。微博「中国版ツイッター」の人気ランキングもオリンピック関連の話題になっています。また若者の間では、テレビ局の生中継をみるよりも、自分が好きな解説者が選べるオンライン動画アプリで観戦することが主流となっているようです。特に今回冬季オリンピックの生中継放送権を受け取った人気スポーツ解説者が集まっているアプリの「ミグ」(咪咕)が空前の好評を博しています。

今のところ私にとって最も感動を覚えたのは中国の00後(2000年以降生まれの世代)選手の蘇翊鳴(スー・イーミン、スノーボード)選手と谷愛凌(グー・アイリン、フリースタイルスキー)選手、そして中国でも超人気の羽生結弦選手(フィギュアスケート)の素晴らしい挑戦でした。彼らのパフォーマンスを通じて、「限界を押し上げる」失敗を恐れない姿や堅い意志が確実に伝えられ、見るだけでもたくさんの勇気をもらったような感じがしました。



○「倒春寒」について

旧暦春節と節分の立春からもう3週間程度が過ぎています。徐々に春の気分になってきたところ、先週からまた急に冷え込んできています。

春頃に一時ながら異常に寒くなることは日本語で「寒の戻り」と言うと言いましたが、中国でも「倒春寒」という言葉があります。こういう時期は風邪をひきやすいので、中国では「春捂」という言葉もあります。要するに、本格的な春を迎える前に薄着になってしまうと、体調が崩れてしまうので、「春にはやや厚着をしよう」という意味合いです。

先週末、家族と一緒に郊外のリゾート地に出掛けました。澄んだ青空が見えてとてもよい気分になりましたが、やはり意外な寒さに負けて早々と家に戻るようになってしまいました。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年12月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は改善基調が続いている。輸出が顕著に増加したほか、民間消費・投資にも改善がみられた。民間投資指数は前年同月比4.2%上昇。機械・設備投資、建設投資ともに前月比増加した。鉱工業生産指数は前年同月比6.8%増。特に、化学製品と自動車が好調だった。民間消費指数は同1.2%下落したものの、前月比で増加した。半耐久消費財、サービスが増加した。一方、11月に入国者への隔離免除の開始を受け外国人旅行者数が増加したが、引き続き低水準となっている。公共支出は経常、資本支出ともに前年同月比で減少した。

◆タイ商務省によると、2021年12月の輸出額は前年同月比24.2%増の249億3,030万米ドルと、4カ月連続で2桁の伸び率となった。農産物・加工品の輸出は前年同月比22.4%、工業製品は同24.0%とそれぞれ増加した。自動車・同部品、鉄鋼・同製品、コンピューター・同部品、IC（集積回路）、エアコン・同部品が大きく伸び

たが、セメント、ゴム手袋、洗濯機・乾燥機等は減少。市場別では、米国への輸出額が最多。日本（1.0%増）を除く主要仕向先の輸出額の伸び率はいずれも2桁増加した。12月の輸入額は同33.4%増の252億8,450万米ドルで、貿易収支は3億5,420万米ドルの赤字となった。2021年通年の輸出額は前年比17.1%増の2,711億7,350万米ドルと、過去最高を記録した。2022年の輸出額は前年比3~4%増加する見通し。一方、12月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=33.55パーツで、前月の33.09パーツ比パーツ安だった。

◆タイ商務省が発表した1月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比3.23%上昇した。食品・飲料は同2.39%上昇。伸び率は2019年10月以降で最高となった。食肉が飼料価格の上昇で値上がりしたことが要因。非食品は同3.81%上昇。燃料価格が高騰したことが挙げられた。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1
実質GDP成長率	%	-2.4	-	-	7.7	-	-	-0.2	-	-	1.9	-
消費者物価上昇率	%	-0.1	3.4	2.4	1.3	0.5	-0.0	1.7	2.4	2.7	2.2	3.2
失業率	%	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	2.3	2.3	2.3	2.3	-
輸出額	100万ドル	24,143	21,403	23,053	23,703	22,651	21,976	23,036	22,739	23,648	24,930	-
輸入額	100万ドル	23,512	21,247	22,262	22,551	22,467	23,192	22,426	23,109	22,629	25,284	-
経常収支	100万ドル	-359	-77	-1,583	-818	-1,590	-2,731	-791	-1,058	346	-1,378	-
外貨準備高	10億ドル	245.5	250.4	251.8	246.5	248.0	252.0	244.7	246.1	243.0	246.0	242.8
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	30.8	31.3	31.3	31.5	32.6	33.1	33.1	33.5	33.1	33.6	33.2

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年3月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

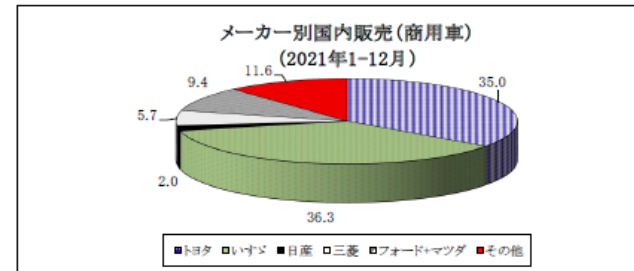
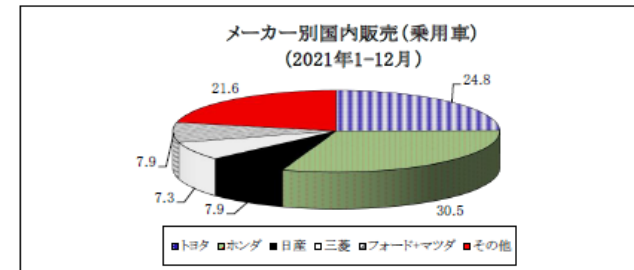
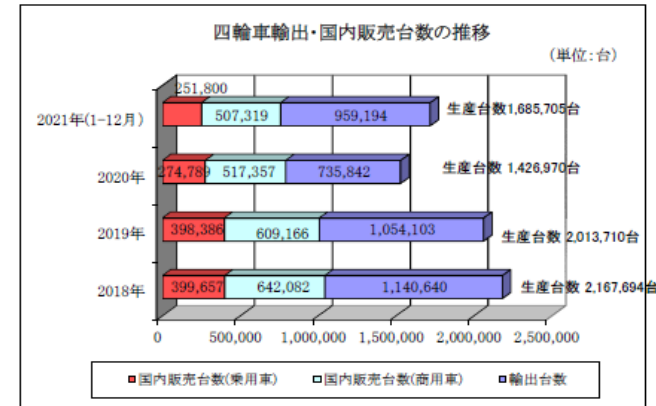
タイにおける自動車産業の動向

出所:タイ工業連盟(FTI)

			2018年	2019年	2020年	2021年 (1-12月)	前年同期比 (%)	12月
【台数】			(台)					
四輪	生産台数	乗用車	884,609	804,340	542,437	599,844	110.6	50,23
		商用車	1,283,085	1,209,370	884,533	1,085,861	122.8	104,13
		合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	1,685,705	118.1	154,36
	国内販売台数	乗用車	399,657	398,386	274,789	251,800	91.6	31,91
		商用車	642,082	609,166	517,357	507,319	98.1	59,09
		合計	1,041,739	1,007,552	792,146	759,119	95.8	91,01
	輸出台数		1,140,640	1,054,103	735,842	959,194	130.4	101,30
二輪	生産台数		2,063,076	1,948,480	1,615,319	1,780,654	110.2	167,82
	国内販売台数		1,788,323	1,718,587	1,516,096	1,606,481	106.0	145,34
	輸出台数		886,275	948,839	727,152	965,967	132.8	85,67
	【完成車輸出金額】		(百万バート)					
四輪			594,810	545,968	410,912	561,147	136.6	60,98
二輪			61,654	69,933	85,802	75,985	88.6	5,62

出所:トヨタ自動車

【メーカー別国内販売台数】			2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1-12月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	12月
トヨタ	乗用車		112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	62,403	91.6	24.8	7,347
	商用車		202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	177,320	100.7	35.0	19,803
	合計		315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	239,723	98.1	31.6	27,150
いすゞ	乗用車		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車		177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	184,160	101.6	36.3	18,801
	合計		177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	184,160	101.6	24.3	18,801
ホンダ	乗用車		95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	76,886	99.3	30.5	8,763
	商用車		32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	11,806	75.6	2.3	2,793
	合計		128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	88,692	95.3	11.7	11,556
日産	乗用車		43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	19,790	73.0	7.9	2,171
	商用車		28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	9,906	56.8	2.0	1,421
	合計		72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	29,696	66.6	3.9	3,592
三菱	乗用車		31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	18,456	82.5	7.3	2,484
	商用車		52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	28,732	82.0	5.7	3,279
	合計		84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	47,188	82.2	6.2	5,763
その他	乗用車		115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	74,265	93.1	29.5	11,152
	商用車		147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	95,395	103.8	18.7	12,996
	合計		263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	169,660	98.9	22.3	24,148
合計	乗用車		399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	251,800	91.6	100.0	31,917
	商用車		642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	507,319	98.1	100.0	59,093
	合計		1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	759,119	96.8	100.0	91,010



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。